



2021年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年5月14日

上場会社名 株式会社 フジオフードグループ本社
 コード番号 2752 URL <http://www.fujio-food.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤尾 政弘

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ財務経理担当 (氏名) 仁田 英策

TEL 06-6360-0306

四半期報告書提出予定日 2021年5月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第1四半期の連結業績(2021年1月1日～2021年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第1四半期	6,499	23.8	781		107		69	
2020年12月期第1四半期	8,528	9.8	292		312		423	

(注) 包括利益 2021年12月期第1四半期 24百万円 (%) 2020年12月期第1四半期 729百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第1四半期	1.61	
2020年12月期第1四半期	9.82	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第1四半期	24,201	3,482	14.4	80.52
2020年12月期	24,397	3,565	14.6	82.43

(参考) 自己資本 2021年12月期第1四半期 3,477百万円 2020年12月期 3,559百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期		0.00		2.50	2.50
2021年12月期					
2021年12月期(予想)					

3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,491	21.2	709		734		37		0.83
通期	34,919	30.3	102		155		346		7.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期1Q	44,586,260 株	2020年12月期	44,584,660 株
期末自己株式数	2021年12月期1Q	1,403,430 株	2020年12月期	1,403,430 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期1Q	43,181,497 株	2020年12月期1Q	43,141,190 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大が依然として収まらず、2021年1月には緊急事態宣言が発令され個人消費や経済活動が大きく制限される等、極めて厳しい状況で推移いたしました。現時点においても感染症収束時期の見通しは立たず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府および各自治体からの営業自粛要請やインバウンド需要の消失、人件費・原材料価格の高騰や、中食市場の拡大に伴う競争激化など、当社を取り巻く環境は加速度的に変化しております。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」を中心として、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かっぼうぎ」、「つるまる」をはじめとする全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。

また、テイクアウトメニューの充実やデリバリー対象店舗拡大に注力し、新しい生活様式においてもお客様に満足していただける店舗運営に努めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、従業員とお客様の安全確保を第一に、従業員の個人衛生チェックの実施やマスク着用の徹底、正しい手洗いやアルコール消毒の徹底、レジ前や客席での飛沫感染防止対策やQRコード決済対応店舗の拡充に取り組みしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高64億99百万円（前年同期比23.8%減）、営業損失7億81百万円（前年同期は営業損失2億92百万円）、経常利益1億7百万円（前年同期は経常損失3億12百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失69百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失4億23百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

<直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かっぼうぎ」、「つるまる」等の事業展開を行っております。

当事業におきましては、既存事業の全社的な底上げを行うために、販売実績のABC分析から顧客ニーズを図りターゲットを狙った商品開発をするとともに、「まいどおおきに食堂」では弁当割引、「神楽食堂 串家物語」では楽天やYahooとのコラボレーションによる販促など、各業態ごとの強みを生かした販売促進キャンペーン活動を実施いたしました。

また、店舗におけるサービス力向上を図るためのフジオアカデミーでは、Zoom等の活用により受講しやすい環境を構築し、教育・研修体制の強化を行いました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は62億17百万円（前年同期比23.5%減）、セグメント損失は2億83百万円（前年同期はセグメント利益1億51百万円）となりました。

<FC事業>

FC事業につきましては、当社トレーナーが各加盟店に臨店して行う調理指導の他、店長会議、トレーナー会議等を通じて直営店における成功事例・問題点の共有を進めることにより更なる集客力の向上を図っております。今後も加盟企業との親密なコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらなる集客・売上の向上を目指してまいります。

以上の結果、FC事業全体の売上高は2億81百万円（前年同期比28.7%減）、セグメント利益は1億58百万円（前年同期比44.2%減）となりました。

当社グループの2021年3月末時点の店舗数は818店舗(直営店(国内)518店舗、直営店(海外)5店舗、FC店(国内)291店舗、FC店(海外)4店舗)となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。

	直営店 (国内)	直営店 (海外)	FC店 (国内)	FC店 (海外)	合計
まいどおおきに食堂	139	4	216	1	360
神楽食堂 串家物語	81	-	26	-	107
手作り居酒屋 かつぼうぎ	23	-	4	-	27
つるまる	40	-	8	3	51
その他	235	1	37	-	273
合計	518	5	291	4	818

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は1億95百万円減少し、242億1百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末から95百万円増加し、固定資産は2億90百万円減少しております。流動資産が増加した主な理由は、現金及び預金の減少3億84百万円、その他に含まれる未収入金の増加6億52百万円によるものであります。固定資産が減少した主な理由は有形固定資産の減少2億69百万円、繰延税金資産の減少1億46百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して1億13百万円減少し、207億18百万円となりました。これは主に未払消費税等の減少1億29百万円、繰延税金負債の減少1億7百万円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払い等により、前連結会計年度末と比較して82百万円減少し、34億82百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予測につきましては、2021年2月19日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,425	2,041
売掛金	510	481
たな卸資産	150	132
前払費用	448	446
預け金	940	850
その他	445	1,064
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	4,920	5,016
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,239	17,266
減価償却累計額	△8,142	△8,352
減損損失累計額	△1,246	△1,264
建物及び構築物（純額）	7,849	7,650
工具、器具及び備品	5,893	5,954
減価償却累計額	△4,897	△4,971
減損損失累計額	△300	△305
工具、器具及び備品（純額）	695	678
土地	1,523	1,523
建設仮勘定	532	483
その他	395	399
減価償却累計額	△329	△336
その他（純額）	66	62
有形固定資産合計	10,667	10,397
無形固定資産		
のれん	1,660	1,636
その他	69	69
無形固定資産合計	1,730	1,705
投資その他の資産		
投資有価証券	433	553
関係会社株式	275	280
繰延税金資産	1,423	1,277
敷金及び保証金	4,027	3,992
その他	976	1,046
貸倒引当金	△57	△67
投資その他の資産合計	7,078	7,082
固定資産合計	19,476	19,185
資産合計	24,397	24,201

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,174	1,160
短期借入金	5,950	6,850
1年内返済予定の長期借入金	2,877	2,649
未払金	1,180	1,205
未払費用	509	446
未払法人税等	19	22
未払消費税等	300	170
賞与引当金	46	47
株主優待引当金	162	145
資産除去債務	33	29
その他	197	279
流動負債合計	12,451	13,007
固定負債		
長期借入金	6,163	5,618
リース債務	51	43
資産除去債務	1,146	1,141
預り保証金	263	260
長期未払金	113	113
繰延税金負債	142	34
持分法適用に伴う負債	500	500
固定負債合計	8,380	7,711
負債合計	20,831	20,718
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,210	2,211
資本剰余金	2,092	2,092
利益剰余金	199	22
自己株式	△876	△876
株主資本合計	3,625	3,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△78	4
為替換算調整勘定	12	23
その他の包括利益累計額合計	△66	27
新株予約権	5	5
純資産合計	3,565	3,482
負債純資産合計	24,397	24,201

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
売上高	8,528	6,499
売上原価	3,085	2,380
売上総利益	5,442	4,118
販売費及び一般管理費	5,734	4,900
営業損失(△)	△292	△781
営業外収益		
受取利息	0	0
貸貸収入	8	3
施設利用料	10	-
持分法による投資利益	-	3
雇用調整助成金	-	18
助成金収入	-	878
その他	6	17
営業外収益合計	25	923
営業外費用		
支払利息	12	19
貸貸収入原価	6	2
持分法による投資損失	14	-
その他	12	11
営業外費用合計	46	33
経常利益又は経常損失(△)	△312	107
特別利益		
新株予約権戻入益	0	-
固定資産売却益	-	2
特別利益合計	0	2
特別損失		
店舗解約損	23	45
固定資産除却損	29	-
減損損失	123	105
その他	7	11
特別損失合計	183	162
税金等調整前四半期純損失(△)	△495	△52
法人税等	△71	17
四半期純損失(△)	△423	△69
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△423	△69

（四半期連結包括利益計算書）
 （第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）
四半期純損失（△）	△423	△69
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△295	82
為替換算調整勘定	△8	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	△305	93
四半期包括利益	△729	24
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△729	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

助成金収入

新型コロナウイルス感染症に伴う政府及び自治体からの特例措置の適用を受けたものであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	FC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,132	395	8,528	-	8,528
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	8,132	395	8,528	-	8,528
セグメント利益	151	284	435	△727	△292

(注) 1. セグメント利益の調整額△727百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間において、直営事業について閉店の意思決定による123百万円の減損損失を計上しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	FC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,217	281	6,499	-	6,499
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	6,217	281	6,499	-	6,499
セグメント利益又は損失(△)	△283	158	△125	△656	△781

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△656百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間において、直営事業について閉店の意思決定による105百万円の減損損失を計上しております。